

「堅信の秘蹟」

主任司祭 晴佐久昌英

無事に堅信式が終わり、ほっとしている。このたび堅信の秘蹟を受けた皆さんには改めておめでとうと言いたいし、また事前の準備や当日の運営に携わった皆さんには本当にご苦労様でしたと言いたい。

なにしろ百十四人が受堅するという堅信式である。式中、「受堅者と代親はお立ちください」と言う呼びかけにこたえて、二百人が一斉に立ちあがるさまは壮観だった。

堅信の秘蹟は、ある意味で洗礼の秘蹟の完成である。と言っても堅信なしの洗礼では何か欠けたところがあるというわけではない。洗礼の秘蹟は全面的に神の恵みによるものであり、神のわざである以上、完全なものである。しかし、ぼくたちは不完全なので、この恵みをきちんと受け止め、十分に生かすことができない。そこでさらに堅信の秘蹟を受けて洗礼の恵みをいっそう確かなものにしよう、というわけである。

したがって、制度上は洗礼式の時に堅信も授けることもできるのだが、今の高円寺教会では、これを分けて授けることにしている。分けると今回のように準備運営が大変にはなるが、洗礼の恵みをいっそう強めるというその本来の目的から言っても、その方が本人にとっても教会全体にとっても有益だからである。実際、今回の堅信式は、高円寺教会にとって想像をはるかに超える恵みの機会となった。教会全体がどこか「本気」になったという印象さえある。

堅信式を司式して下さった幸田司教様が、こう話して下さった。「堅信の秘蹟を受けるということは、わたしはキリストの弟子になりますという決意表明でもある。ここに並んだ人は自らの意志でこの秘蹟を望んでいるのであり、このような時代に、百十四名の人がこうしてキリストの弟子として生きていこうとしていることに感動する」

秘蹟には、力がある。中には軽い気持ちで堅信の秘蹟を受けた人もいるかもしれないが、神様のなさることは完全である。神様はこの百十四人を通して何かすばらしいことをなさろうとしておられる。そのために、おそらくはまず、一人ひとりを「本気」にさせるに違いない。